

## 第4章 バランスシートと行政コスト計算書

### 第1節 バランスシート

#### 1) 成田市全体のバランスシート

第22表 成田市全体のバランスシート

(平成17年3月31日現在)

【資産】		【負債】	
1. 固定資産	2,021 億 8,200 万円	1. 固定負債	586 億 2,300 万円
総務費(市庁舎、防災施設等)	108 億 8,200 万円	市債	502 億 8,000 万円
民生費(保健福祉館、保育園等)	53 億 6,600 万円	退職給与引当金	81 億 400 万円
衛生費(ごみ処理施設、急病診療所等)	125 億 1,300 万円	その他引当金等	2 億 3,900 万円
労働費(勤労者会館等)	9,200 万円		
農林水産業費(農道、排水路等)	44 億 4,700 万円	2. 流動負債	33 億 6,000 万円
商工費(東和田駐車場、公衆トイレ等)	9 億 9,700 万円	(翌年度に支払う市債等)	
土木費(道路橋りょう、公園、河川等)	669 億 8,900 万円		
消防費(消防署、消防車等)	25 億 9,300 万円	<b>負債合計</b>	<b>619 億 8,300 万円</b>
教育費(学校、図書館、公民館等)	549 億 0,500 万円		
卸売市場(水産棟、青果棟等)	20 億 7,100 万円		
下水道(下水管、ポンプ施設等)	253 億 5,200 万円		
水道(配水管、配水場等)	159 億 5,200 万円	<b>【正味資産】</b>	
その他	2,300 万円	国からの補助金	220 億 0,000 万円
		県からの補助金	26 億 1,200 万円
2. 投資等(出資金、貸付金等)	199 億 8,000 万円	市税等の一般財源	1,484 億 5,700 万円
		<b>正味資産合計</b>	<b>1,730 億 6,900 万円</b>
3. 流動資産(現金、預金等)	128 億 9,000 万円		
4. 繰延資産	0 万円		
<b>資産の合計</b>	<b>2,350 億 5,200 万円</b>	<b>負債と正味資産の合計</b>	<b>2,350 億 5,200 万円</b>

第23表 市民1人あたりのバランスシート

資 産	238 万円	負 債	63 万円
		正味資産	175 万円

## ○バランスシートの作成基準

### ・バランスシートの意義

このバランスシートは、年度末時点の財務状況を把握するもので、「貸方」は資金をどのように集めたか、「借方」は資金をどのように使ったかを表しています。

資産は、行政サービスを提供するための長期的な経営資源を表しており、土地・建物・出資金・基金等が該当します。

負債は、市債や退職給与引当金等で、将来の返済や支出が確実に見込まれるものです。正味資産は、負債とは逆に国・県からの補助金や市税等の一般財源で資産を形成したもので、返済の必要がないものとなります。

借方	貸方
資 産	負 債
	正味資産

### ・作成の手法

国の基準に基づき、昭和 44 年度以降の決算統計から資産を推計する手法により作成しています。これは、普通建設事業費をもって固定資産の取得原価とするもので、さらに、次の世代に継承される資産価値を把握するために、区分別に減価償却を行っています。耐用年数は庁舎 50 年、保育園 30 年、道路 15 年、橋りょう 60 年等となっており、この年数で価値がゼロになるよう定額法により減価償却します。ただし、土地は取得時点の購入費がそのまま計上されます。また、職員の退職金総額を推計し、退職給与引当金として負債に計上する等の特徴があります。

特別会計も、同様の手法により作成してあります。また、水道事業会計はバランスシートを作成済みですが、普通会計等に準じてバランスシートを組替えました。

さらに、全会計を連結するに当たっては、普通会計からの出資金等の内部的な取引を相殺する調整を加えてあります。

### ・連結の範囲

普通会計（一般会計）、全ての特別会計（国民健康保険、老人保健、公設地方卸売市場、下水道、介護保険事業）、公営企業会計（水道事業）を対象に作成してあります。

### 【用語解説】 バランスシートの項目

固定資産	市が保有する土地や建物など。
投資等	市が所有する基金（財政調整基金等を除く）、他団体への投資・出資・貸付金。
流動資産	歳入額から歳出額を差引いた形式収支、財政調整基金、税や保育料などの収入未済額、水道事業の未収金など。
繰延資産	水道事業の繰延資産で、研究費等を資産計上し 3 年で償却します。
固定負債	返済期限が 1 年を超える債務（市債のうち翌年度の元金償還分を除く残高、退職給与引当金）。
退職給与引当金	年度末に職員全員が普通退職すると仮定した場合の要支給額。
流動負債	市債のうち翌年度の元金償還額など。
正味資産	資産形成に充てられた資金のうち返済不要の財源。

## ○バランスシートからわかること

このバランスシートは、一般会計、全ての特別会計及び公営企業会計を含めて作成してありますので、成田市が、これまでにどれだけの資産を形成し、どれだけの負債を抱えているかなど、市の全体像を概観することができます。

平成16年度末現在、2,351億円の資産があります。特に、空港開港に伴う空港関連事業及び人口増加等により、道路・公園等の土木費、小中学校・公民館・図書館等の教育費、上水道や下水道等の整備が大きな割合を占めていることがわかります。

一方、620億円の負債があるのも把握できます。これは、市民が長期にわたって使用する施設の整備にあたっては、将来の市民にもその一部を負担していただくために、市債を財源としているため、今後必ず返済しなければならないものです。

正味資産は、1,731億円。資産形成の財源のうち将来に負担を残さない資金として、市税や国・県からの補助金等で賄ったものです。資産に対する割合が多く、成田市が健全な財政運営をしてきたことがわかります。

## ○バランスシートの分析

### ・社会資本形成の世代間負担比率（これまでの世代による社会資本負担比率）

社会資本の整備の結果である「固定資産」のうち、正味資産によって形成されている比率です。正味資産は、『これまでの世代による資産形成』の額を示しますので、この比率が高いほど、将来世代の負担が少ないといえます。

成田市では、市民が長期にわたって使用する施設の整備にあたっては、将来世代にもその一部を負担していただくために、市債も財源としていますが、これまでの世代による負担比率が高く、健全な財政運営をしてきたことがわかります。

平成17年度までの継続事業として郷部線整備事業などの大規模事業が進捗していますが、第24表のとおり「社会資本形成の世代間負担比率」は横ばいの状況にあります。

第24表 社会資本形成の世代間負担比率

	平成14年3月	平成15年3月	平成16年3月	平成17年3月
固定資産 A	192,268 百万円	195,388 百万円	198,348 百万円	202,182 百万円
正味資産合計 B	163,911 百万円	168,182 百万円	170,488 百万円	173,069 百万円
これまでの世代による社会資本負担比率 b/a	85.3%	86.1%	86.0%	85.6%

・ 固定資産の目的別割合

固定資産の行政目的別割合を見ることにより、分野ごとの資産形成の比重を把握することができます。第25表・第73図は固定資産の目的別割合です。

成田市では、平成16年度末現在で2,022億円の固定資産残高を保有していますが、道路・公園等の土木費、小中学校・公民館・図書館等の教育費、上下水道等の整備が大きな割合を占めていることがわかります。

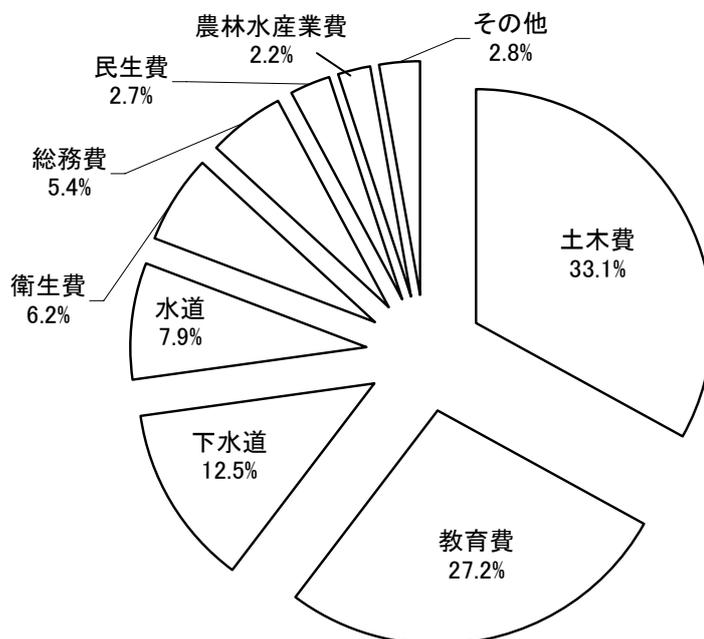
また、前年度との比較では、郷部線整備等による土木費、公津の杜小建設・加良部小増築・三里塚小体育館等の整備や久住第一小拡張用地を取得した教育費の増加が目立ちます。

第25表 固定資産の行政目的別割合前年度比較

(単位：百万円)

	平成16年3月		平成17年3月		増減金額
	金額	割合	金額	割合	
総務費(市庁舎、防災施設等)	10,531	5.3%	10,882	5.4%	351
民生費(保育園、福祉作業所等)	5,517	2.8%	5,366	2.7%	△151
衛生費(ごみ処理施設、急病診療所等)	12,102	6.1%	12,513	6.2%	411
労働費(勤労者会館等)	101	0.1%	92	0.0%	△9
農林水産業費(農道、排水路等)	4,618	2.3%	4,447	2.2%	△171
商工費(東和田駐車場、公衆トイレ等)	1,050	0.5%	997	0.5%	△53
土木費(道路橋りょう、公園、河川等)	65,614	33.1%	66,989	33.1%	1,375
消防費(消防署、消防車等)	2,540	1.3%	2,593	1.3%	53
教育費(学校、図書館、公民館等)	52,757	26.6%	54,905	27.2%	2,148
卸売市場(水産棟、青果棟等)	2,046	1.0%	2,071	1.0%	25
下水道(下水管、ポンプ施設等)	25,467	12.8%	25,352	12.5%	△115
水道(配水管、配水場等)	15,981	8.1%	15,952	7.9%	△29
その他	24	0.0%	23	0.0%	△1
合計	198,348	100.0%	202,182	100.0%	3,834

第73図 固定資産の行政目的別割合



・負債の状況

負債とは、将来の支出が確実に見込まれる債務であり、将来世代が負担する借金です。負債は、市債及び退職給与引当金等の固定負債と、市債の翌年度償還予定額である流動負債で構成されています。翌年度償還予定額を含めた市債残高の総額は536億円となっており、世代間の負担の公平化を考慮しても、その運用には細心の注意が必要となります。第26表は市債の平成16年度の増減状況です。

第26表 市債増減状況

(単位：千円)

	前年度末 現在高	増加	減少	当年度末 現在高	前年度比較
一般会計	33,139,536	3,913,600	3,037,175	34,015,961	876,425
下水道事業	10,511,149	298,900	495,984	10,314,065	△197,084
市場事業	220,603		105,442	115,161	△105,442
水道事業	9,359,456	77,600	270,417	9,166,639	△192,817
合計	53,230,744	4,290,100	3,909,018	53,611,826	381,082

・市民1人あたりの資産と負債

資産や負債を「市民1人あたり」に換算することで、具体的なイメージをつかむことができます。第27表は市民1人あたりの資産と負債の状況です。

第27表 市民1人あたりの資産と負債

	平成14年3月	平成15年3月	平成16年3月	平成17年3月
人 口 a	95,850 人	97,057 人	97,740 人	98,708 人
資 産 b	223,203 百万円	228,948 百万円	232,107 百万円	235,052 百万円
負 債 c	59,292 百万円	60,766 百万円	61,619 百万円	61,983 百万円
1人あたりの資産 b/a	233 万円	236 万円	237 万円	238 万円
1人あたりの負債 c/a	62 万円	63 万円	63 万円	63 万円

・拡大したバランスシート

第22表「成田市全体のバランスシート」では、国の基準に準拠して、関連する団体は連結対象から除外してありますが、土地開発公社、開発協会、教育文化振興財団、農業センターを連結すると第28表のとおりとなります。資産、負債とも増加しますが、これは土地開発公社が公有用地の先行取得にあたり、財源の全てを銀行からの借入金で賄っているためです。

第28表 拡大したバランスシート

( ) 内は市民1人あたりの数値

資 産	2,367 億 2,100 万円 (240 万円)	負 債	634 億 9,600 万円 (64 万円)
		正味資産	1,732 億 2,500 万円 (176 万円)

・普通会計と連結後の比較

普通会計のバランスシートと連結したバランスシートを比較すると、第 29 表・第 74 図のとおりです。

「成田市全体のバランスシート」の資産合計は 1.27 倍に増加するのに対し、正味資産合計の増加は 1.20 倍に止まっています。一方、負債は 1.49 倍に増加し、資産の増加率を大幅に上回ります。これは、普通会計と連結した水道事業、下水道事業が社会資本整備にあたり、財源の多くを市債により賄っているためです。このことは、社会資本形成の世代間負担比率にも反映され、これまでの世代による社会資本負担比率が、普通会計では 90.5%であるのに対し、連結後は 85.6%に減少します。

さらに、土地開発公社などを連結した「拡大したバランスシート」では、その傾向が更に強くなります。

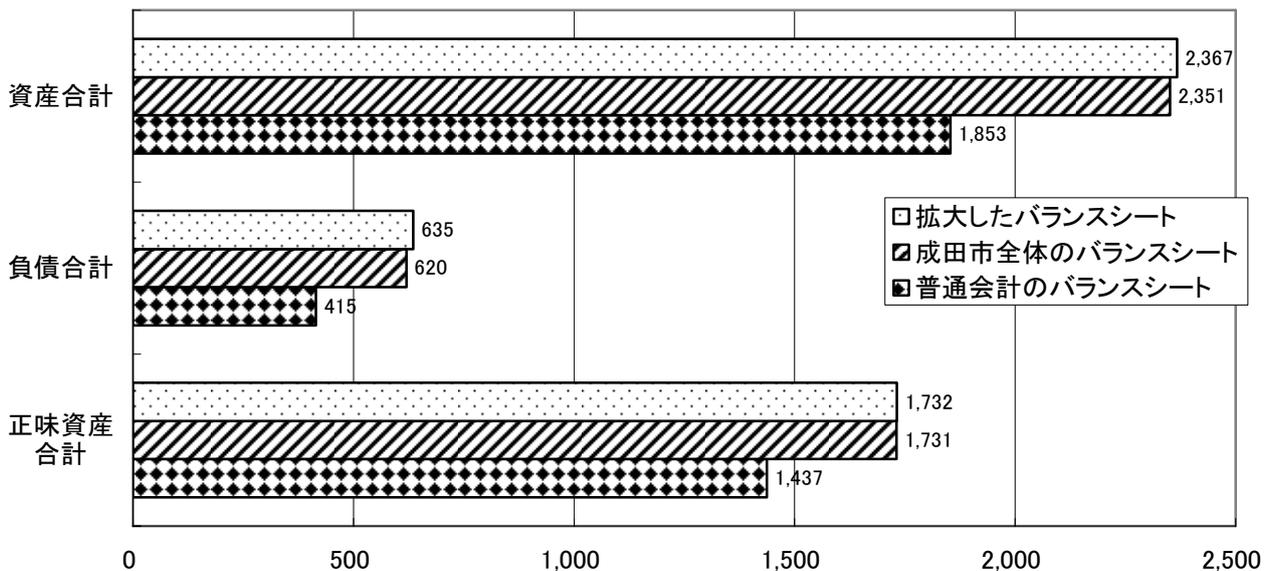
このように、普通会計バランスシートだけでは把握できない成田市全体の実態について、特別会計等を含めた連結バランスシートを作成することにより明らかになっています。

第 29 表 普通会計と連結後の比較

	普通会計の バランスシート	成田市全体の バランスシート	比較	拡大した バランスシート	比較
	(A) 百万円	(B) 百万円	(B)/(A) 倍	(C) 百万円	(C)/(A) 倍
資産合計	185,268	235,052	1.27	236,721	1.28
(うち固定資産)	158,807	202,182	1.27	203,539	1.28
負債合計	41,547	61,983	1.49	63,496	1.53
正味資産合計	143,721	173,069	1.20	173,225	1.21
負債・正味資産合計	185,268	235,052	1.27	236,721	1.28
これまでの世代による 社会資本負担比率	90.5%	85.6%		85.1%	

第74図 普通会計と連結後の比較

億円



## ・バランスシートにおける留意点

このバランスシートは、企業会計基準に基づくものではありません。

国の基準は、昭和44年度以降の決算統計データにより固定資産を推計する手法であるため、昭和43年度以前に取得した資産は計上されていません。また、昭和44年度以後の売却や滅失により除却された資産が計上されるなどの不合理があります。また、個々の資産価値を特定できないなどの問題点もあります。

さらに、特別会計（公設地方卸売市場事業、下水道事業会計）の耐用年数が明示されておらず、耐用年数を何年に設定するかによって残存価額に大きな違いが生じます。また、今回計上されていない一部事務組合への負担金の取扱いも課題として残っています。

## ☆紫陽花（アジサイ）好きの陽花ちゃんと財政課長の「なるほど・ザ・財政」 ～バランスシートの見方～



成田市全体のバランスシートをみると、資産が2,000億円以上あるようになってるけど、なんだかピンとこないな。



「資産」は行政サービスを提供するための資源、つまり道路や公園、学校、体育館などの残存価値を示すものになるから、金額が多いほど施設整備が進んでいて、住民はより質の高いサービスが受けられることになるよ。一方「負債」は、施設整備のために借り入れた市債などだから、少ないほうが将来の負担が軽いことを示しているんだ。住民1人当たりで換算してみるとイメージがつかみやすいと思うよ。



なるほど、住民1人当たりでは、238万円の資産と63万円の負債があるわね。うちは4人家族だから、952万円の資産と252万円の借金があるってことだよ。これって、マイホームを新築した時にローンを組んで返済してるのと同じことになるの？ 借金が多いと将来が不安になるけど成田市は大丈夫なの？



市債は資金調達的手段だけでなく、世代間負担の公平化や財政負担の平準化という機能があるんだよ。だから、市債という借金も活用しながら施設整備を進めているんだ。ただし、市債に依存しすぎると将来世代の負担が増えて、財政が硬直化することになるけれど、成田市は固定資産に対する負債の割合が低くなっているよ。



成田市の財政は健全っていうことね。



そうだね。ただし、バランスシートによる財務分析はまだ確立されていないから、公債費比率や起債制限比率などの指標を活用して総合的に判断しないとイケないよ。もちろん、いずれの指標をみても、財政の健全性は確保されているから安心してね。

## 2) 普通会計のバランスシート

第 30 表 普通会計のバランスシート

(平成 17 年 3 月 31 日現在、単位：千円)

借	方	貸	方
[資産の部]		[負債の部]	
1. 有形固定資産		1. 固定負債	
(1) 総務費	10,881,882	(1) 市債	31,508,349
(2) 民生費	5,366,001	(2) 債務負担行為	
(3) 衛生費	12,513,564	① 物件の購入等	0
(4) 労働費	91,605	② 債務保証又は損失補償	0
(5) 農林水産業費	4,447,229	債務負担行為計	0
(6) 商工費	996,988	(3) 退職給与引当金	7,530,831
(7) 土木費	66,988,777	(4) その他	
(8) 消防費	2,592,578	① 公営企業からの固定負債	0
(9) 教育費	54,905,510	その他計	0
(10) その他	22,730		
計	158,806,864	固定負債合計	39,039,180
(うち土地	56,126,389 )		
有形固定資産合計	158,806,864	2. 流動負債	
2. 投資等		(1) 翌年度償還予定額	2,507,612
(1) 投資及び出資金	5,394,347	(2) 翌年度繰上充用金	0
(2) 貸付金	0	(3) その他	
(3) 基金		① 未払費用	0
① 特定目的基金	3,795,291	② 賞与引当金	0
② 土地開発基金	7,783,817	③ 公営企業からの流動負債	0
③ 定額運用基金	427,796	その他計	0
基金計	12,006,904	流動負債合計	2,507,612
(4) 退職手当組合積立金	482,066		
投資等合計	17,883,317	負債合計	41,546,792
3. 流動資産			
(1) 現金・預金		[正味資産の部]	
① 財政調整基金	2,732,819	1. 国庫支出金	17,463,414
② 減債基金	926,243	2. 県支出金	2,467,651
③ 歳計現金	1,474,831	3. 一般財源等	123,789,740
現金・預金計	5,133,893		
(2) 未収金		正味資産合計	143,720,805
① 地方税	3,371,723		
② その他	71,800	負債・正味資産合計	185,267,597
未収金計	3,443,523		
(3) その他			
① 前払費用	0		
その他計	0		
流動資産合計	8,577,416		
資産合計	185,267,597		

※債務負担行為に係る補償等

①物件の購入等に係るもの	2,118,125	千円
②債務保証及び損失補償に係るもの	0	千円
③利子補給等に係るもの	2,161	千円

### 【用語解説】普通会計とは

決算統計における会計区分であり、公営事業会計以外の全ての会計のことをいいますが、成田市では「一般会計」が該当します。

・社会資本形成の世代間負担比率（これまでの世代による社会資本負担比率）

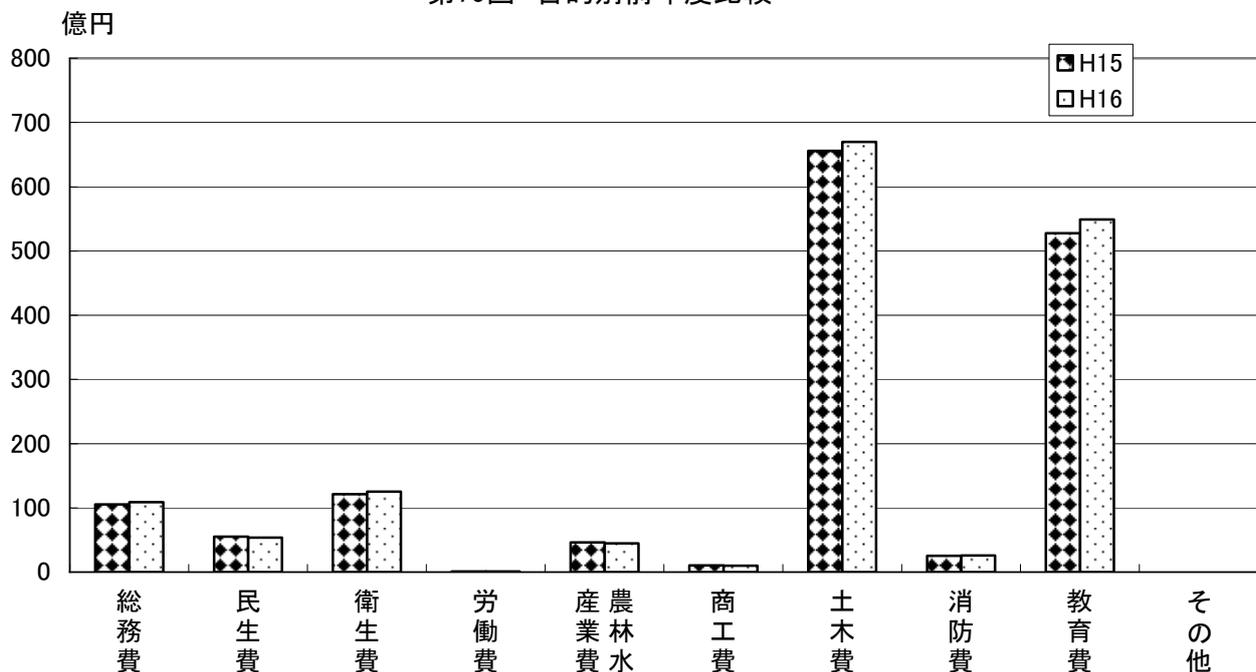
第 31 表 社会資本形成の世代間負担比率

（単位：千円）

	平成 14 年 3 月	平成 15 年 3 月	平成 16 年 3 月	平成 17 年 3 月
有形固定資産合計 a	148,453,795	151,839,265	154,853,928	158,806,864
正味資産合計 b	135,691,918	139,983,846	141,724,814	143,720,805
これまでの世代による社会資本負担比率 b/a	91.4%	92.2%	91.5%	90.5%

・固定資産の目的別割合

第75図 目的別前年度比較



・市民 1 人あたりの資産と負債

第 32 表 市民 1 人あたりの資産と負債

	平成 14 年 3 月	平成 15 年 3 月	平成 16 年 3 月	平成 17 年 3 月
人 口 a	95,850 人	97,057 人	97,740 人	98,708 人
資 産 b	173,130,666 千円	179,123,606 千円	182,435,366 千円	185,267,597 千円
負 債 c	37,438,748 千円	39,139,760 千円	40,710,552 千円	41,546,792 千円
1 人あたりの資産 b/a	1,806 千円	1,846 千円	1,867 千円	1,877 千円
1 人あたりの負債 c/a	391 千円	403 千円	417 千円	421 千円

## 第2節 行政コスト計算書

### 1) 行政コスト計算書

行政コストの総額は347億円です。一方、一般財源や国庫（県）支出金、使用料・手数料などを合わせた収入は361億円で、14億円の黒字となり、国庫（県）支出金償却額9億円を加えると23億円の黒字となります。

第33表 行政コスト計算書（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

	金額(千円)	構成比	内容の説明
人にかかるコスト	9,342,638	26.9%	行政サービスの担い手である職員に要するもの。人件費等を計上しています。
物にかかるコスト	14,369,452	41.4%	施設の運営管理費や減価償却費等を計上しています。
移転支出的なコスト	10,044,252	28.9%	他の主体に移転して効果が出てくるようなもの。扶助費、補助費等を計上しています。
その他のコスト	962,284	2.8%	公債費(利子分のみ)と、時効などにより徴収できなかった市税や使用料など。
行政コスト合計 a	34,718,626		
収入 b	36,156,976		行政サービスの財源として受ける市税、使用料、手数料、国庫支出金(資産形成に資するものを除く)など。
正味資産国庫(県)支出金償却額 c	854,939		有形固定資産の減価償却に合わせて償却された国(県)支出金。
一般財源増減額 b-(a-c)	2,293,289		

### ○コスト計算書の意義

バランスシートは、主に社会資本の整備（資産）とその財源（負債・正味資産）の状況を把握するためのものであり、人的サービスや給付サービスなど、資産形成につながらない支出を把握することができません。成田市では、これまでも福祉・環境・教育等をはじめ、各行政分野でソフトサービスの充実を図っておりますが、これらの経費が見えにくい状況となっております。

今後、住民ニーズの多様化、少子化・高齢化等の要因から、ソフト面の支出が増加することが予想され、減価償却費を含めた全体コストを的確に捉えることが必要となります。そこで、当該年度の行政サービスの提供状況を説明する手段として平成13年度より「行政コスト計算書」を作成しています。

### ○作成基準

国の作成基準により作成しています。

- ① 対象とする会計 普通会計を対象としています。
- ② 計上コストの範囲

現金の出納に止まらず、当該年度の住民に提供した行政サービスに要した全てのコスト（現金支出に、減価償却費、不納欠損額、退職給与引当金といった非現金支出を加えたもの）を計上します。

## 2) 行政コスト計算書の分析

### ○コスト計算書詳細

第 34 表 コスト計算書詳細

(単位：千円)

	総額	(構成比率)	議会費	総務費	民生費	衛生費	労働費	農林水産業費
人件費	8,901,884	25.6%	344,408	2,942,940	1,206,512	667,903	9,433	241,226
退職給与引当金繰入等	440,754	1.3%	17,052	145,712	59,737	33,070	467	11,944
人にかかるコスト	9,342,638	26.9%	361,460	3,088,652	1,266,249	700,973	9,900	253,170
物件費	7,492,251	21.6%	35,120	1,048,182	505,011	2,410,074	12,631	23,724
維持補修費	491,183	1.4%		7,453	6,761	8,637		18,668
減価償却費	6,386,018	18.4%	1,644	371,907	200,807	710,416	9,799	446,745
物にかかるコスト	14,369,452	41.4%	36,764	1,427,542	712,579	3,129,127	22,430	489,137
扶助費	4,101,328	11.8%			3,894,934	87,487		
補助費等	2,043,830	5.9%	23,463	548,857	366,618	533,923	15,557	196,286
繰出金	2,770,769	8.0%			1,758,133			
普通建設事業費 (他団体への補助金等)	1,128,325	3.2%		157,201	11,137	669,608		139,131
移転支出的なコスト	10,044,252	28.9%	23,463	706,058	6,030,822	1,291,018	15,557	335,417
公債費(利子分)	791,019	2.3%						
不納欠損額	171,265	0.5%						
その他コスト	962,284	2.8%						
<b>行政コスト a</b>	<b>34,718,626</b>		<b>421,687</b>	<b>5,222,252</b>	<b>8,009,650</b>	<b>5,121,118</b>	<b>47,887</b>	<b>1,077,724</b>
構成比率			1.2	15.0	23.1	14.7	0.1	3.1

	商工費	土木費	消防費	教育費	災害復旧費	公債費	諸支出金	不納欠損額
人件費	110,578	643,789	1,611,854	1,123,241				
退職給与引当金繰入等	5,475	31,876	79,807	55,614				
人にかかるコスト	116,053	675,665	1,691,661	1,178,855				
物件費	149,831	544,760	209,274	2,553,633		11		
維持補修費	1,536	392,538	5,541	50,049				
減価償却費	53,713	3,168,279	309,704	1,113,004				
物にかかるコスト	205,080	4,105,577	524,519	3,716,686		11		
扶助費				118,907				
補助費等	120,814	14,723	59,134	164,455				
繰出金	266,615	746,013		8				
普通建設事業費 (他団体への補助金等)	8,091	142,527		630				
移転支出的なコスト	395,520	903,263	59,134	284,000				
公債費(利子分)						791,019		
不納欠損額								171,265
その他コスト						791,019		171,265
<b>行政コスト</b>	<b>716,653</b>	<b>5,684,505</b>	<b>2,275,314</b>	<b>5,179,541</b>	<b>0.0</b>	<b>791,030</b>	<b>0.0</b>	<b>171,265</b>
構成比率	2.1	16.4	6.6	14.9	0.0	2.3	0.0	0.5

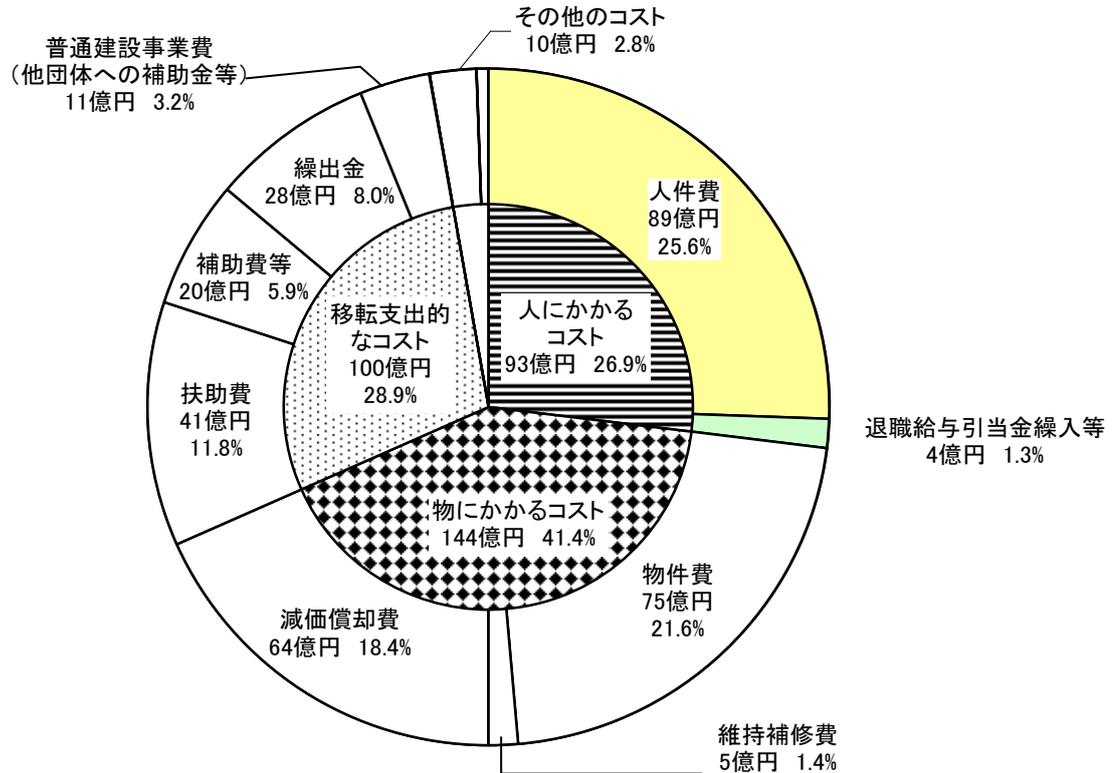
#### [収入]

使用料・手数料 b	3,657,123
国庫(県)支出金 c	3,954,057
一般財源等 d	28,545,796
収入(b+c+d) e	36,156,976
正味資産国庫(県)支出金償却額 f	854,939
期首一般財源等	121,496,451
差引(e-a+f) 一般財源等増減額	2,293,289
期末一般財源等	123,789,740

## ○費目別コスト内訳

行政コストの総額は347億円で、費目別に分類すると第76図のとおりです。

第76図 費目別コスト内訳



### 【用語解説】 行政コスト計算書の項目

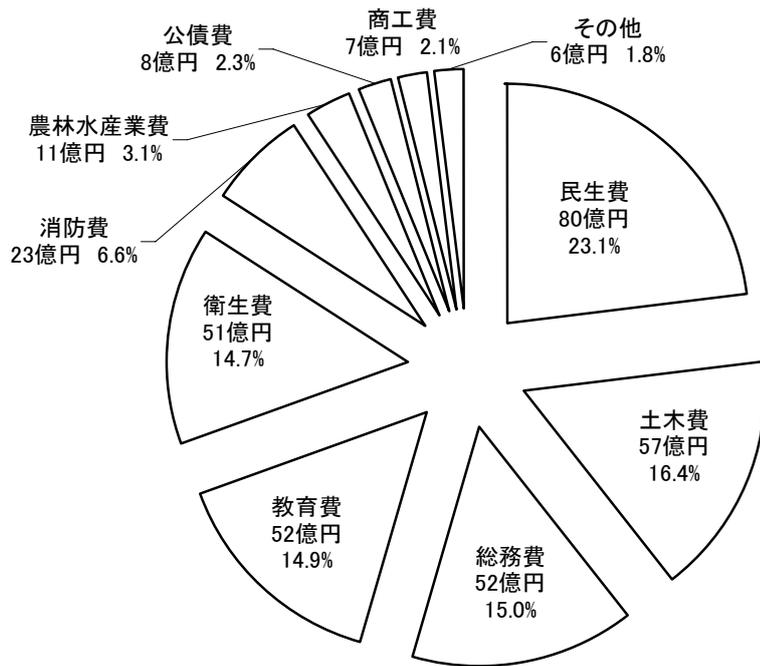
人件費	職員給与、議員、特別職、各種委員会委員及び嘱託職員の報酬や社会保険料などのための経費で、退職手当を除いた額。
退職給与引当金繰入等	この1年間職員が勤務したことにより発生する退職手当の増加分。
物件費	旅費、消耗品や備品の購入、施設の清掃等の管理・運営委託料、土地やコンピュータ機器の使用などのための経費。
維持補修費	施設の維持修繕に要する経費。
減価償却費	年数の経過とともに減少する施設の価値の減少分を経費として計上。
扶助費	生活保護や医療費の援助や各種手当での支給などに要する経費。
補助費等	他団体への運営費補助金や負担金、自動車保険などの保険料、講習会などの講師謝礼などのための経費。
繰出金	国民健康保険事業や下水道事業などの特別会計へ繰り出す経費。
普通建設事業費 (他団体への補助金)	普通建設事業費のうち、国、県、組合や個人が実施する事業に対する負担金や補助金など。(他の団体での資産形成に支出した負担金や補助金)
その他	公債費のうち利子の支払、不納欠損額 (時効などにより徴収できなかった市税や使用料など)

## ○行政目的別コスト内訳

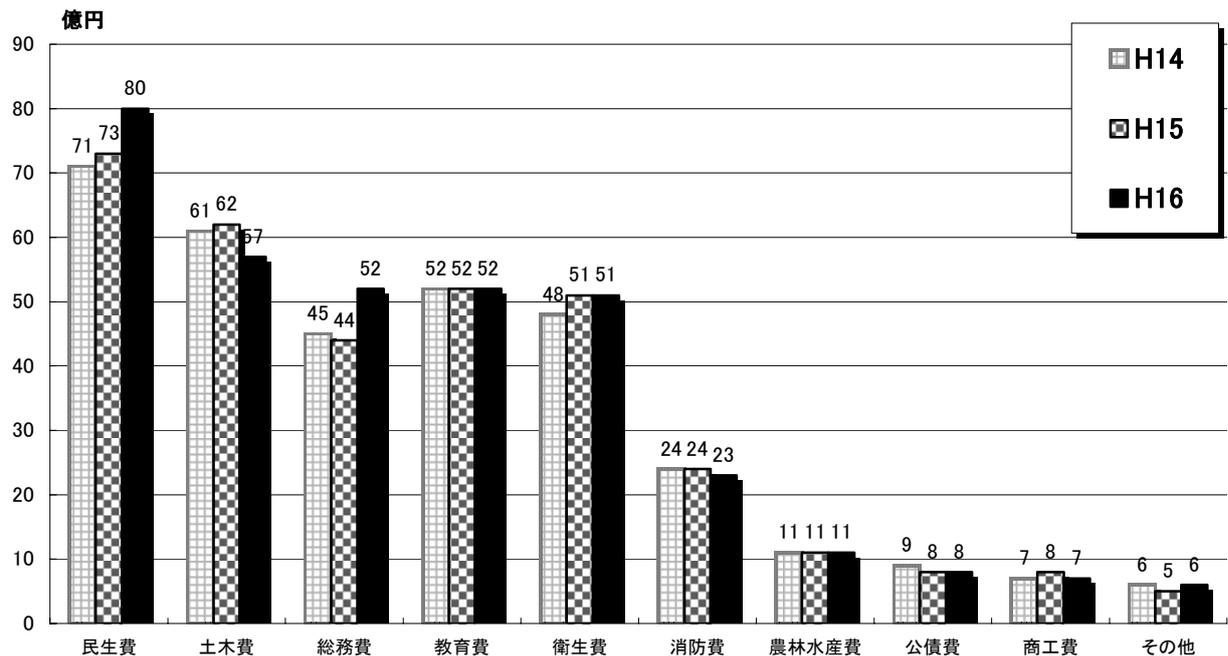
行政コストを行政目的別に見ることで、行政分野ごとに比重を把握することができます。第77図は行政目的別コスト内訳です。

行政コストは、資産形成につながらない給付サービスや人的サービスに消費される経費であり、この割合により行政コストがどの分野に費やされているかが明確になります。成田市では、高齢者や障がい者、児童福祉などにかかる民生費が80億円と一番多くなっています。また、第78図は直近3ヵ年での比較ですが、民生費にかかるコストが着実に増加しているのがわかります。

第77図 行政目的別コスト内訳



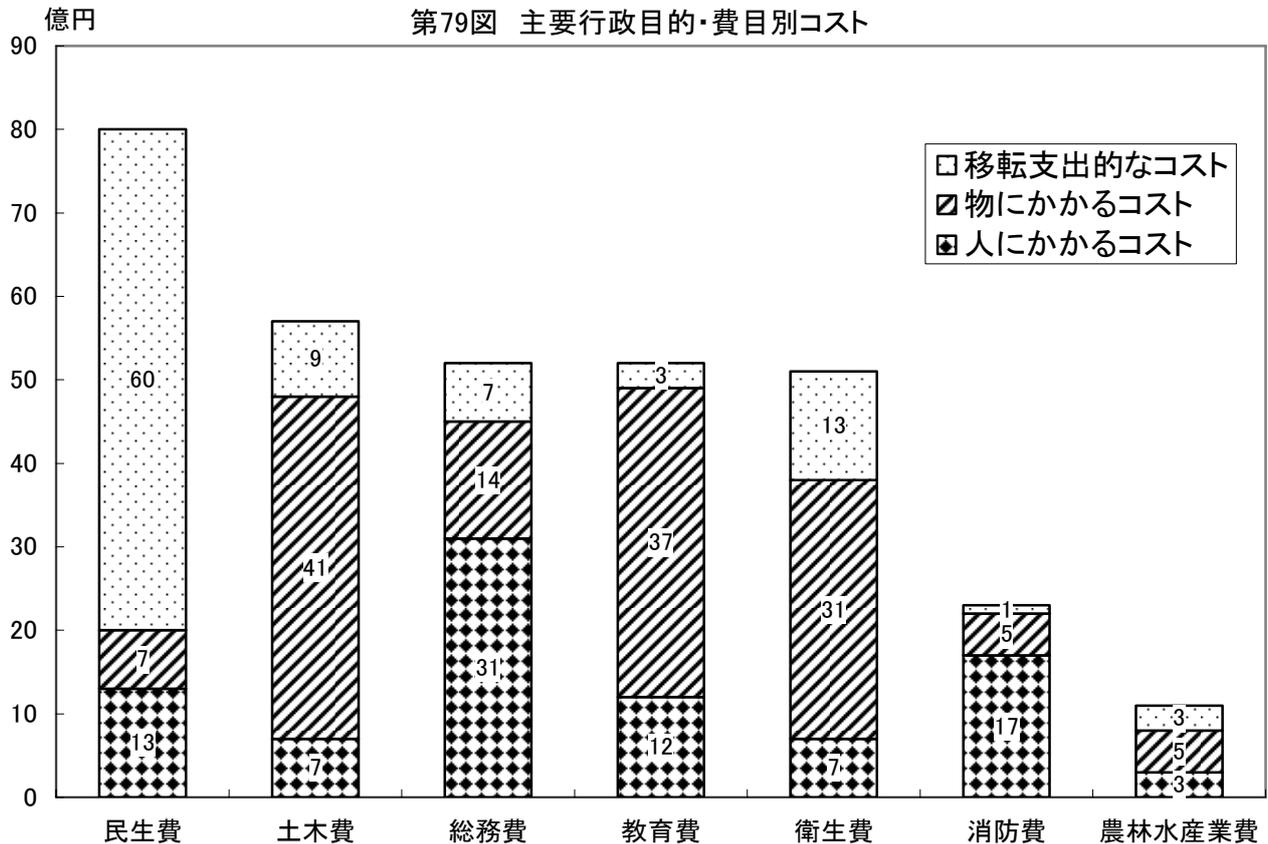
第78図 行政目的別コスト経年変化



## ○行政目的別・費目別コスト内訳

行政目的別にコスト費目ごとの状況を見ることで、行政分野ごとの特徴を把握することができます。第79図は、主要行政目的・費目別コスト内訳です。

民生費では、扶助費などの「移転支出的なコスト」と人件費などの「人にかかるコスト」が多いことがわかります。また、土木費は減価償却費などの「物にかかるコスト」が多く、一方、総務費や消防費は「人にかかるコスト」が大きな比重を占めています。



## ○行政コスト計算書における留意点

この行政コスト計算書は、企業会計基準に基づくものではありません。

国の基準は、昭和44年度以降の決算統計データにより固定資産を推計する手法であるため、個々の資産が特定できません。このため減価償却なども想定上の数値となっています。

なお、住民福祉の増進を目的とし、利益追求の概念を持たず、清算が予定されていない地方公共団体のバランスシートや行政コスト計算書と、民間企業のそれとでは、その意味するところが異なるので、単純に比較ができないことに留意する必要があります。